

市内三基の富士塚について

市内の現存する富士塚は、明治時代初頭にかけて富士講社により築かれたもので、富士塚に登拝することで富士山に登山することと同等の利益があるとされていた。

今回の調査から、白子熊野神社富士塚は丸瀧講、下新倉氷川八幡神社富士塚・浅久保浅間神社富士塚は、丸吉講によってそれぞれ築かれたもので、白子熊野神社富士塚・下新倉氷川八幡神社富士塚は、築造当初の姿を残し、浅久保浅間神社富士塚は移転ないしは移築があったことが分かっている。

これらの富士塚には、他地域の講社の造立した石造物も多く見られ、講社間の交流の後も見えて取れ、明治時代初頭の地域交流の一環も明らかにされている。

このことから、この富士塚は地域の民間信仰の歴史を良く残したもので、地域に長くに継承されてきたものである。和光市の歴史、民俗を理解するうえで大変貴重なものであると考える。

和光市文化財保護委員会
富士塚専門部会